

教育関連記事

エデュサン
edusun

1

2026 / No.123



新年の恒例行事「書き初め大会」を開催。1、2年生は教室で硬筆に取り組み、
初等部3～6年生は楷書、中等部7～9年生は行書の毛筆作品を体育館で制作した。
一筆入魂で丁寧に文字に向き合う姿が印象的だった（写真提供：ニューヨーク日本人学校）

1. 教育レポート

- ◆「もちつき会」で笑顔いっぱい NY 日本人学校
- ◆「大切にしたい日本の文化」 今年も「書き初め」を開催 NY 育英学園
- ◆世界とつながる跳躍、ダブルダッチチームの挑戦と成長 NY 育英学園
- ◆音楽が育む「あきらめない心」と「豊かな感性」発表会を開催 NY 育英学園
- ◆「Welcome to GJS」こどものくに幼稚園を招待 NY 日本人学校
- ◆ニューヨーク近代美術館（MoMA）を訪問 NY 日本人学校
- ◆新春の挑戦！百人一首大会 NY 日本人学校
- ◆女声合唱団「花みずき」の歌声ひびく NY 日本人学校
- ◆ブルーノ・M・ポンテリオ・リッジ・ストリート校と学校間交流 NY 日本人学校
- ◆未来への第一歩を踏み出して 「10歳のつどい」を開催 NY 日本人学校

2. NY 教育関連ニュース

- ◆アメリカの子どもがピザよりも「寿司」を好む時代へ 誕生日パーティーの変化に親が悲鳴
- ◆冬のNY、どこで遊ぶ？ 大人も子どもも遊べる室内スポット 10選【保存版】
- ◆NY市の新教育局長はジャマイカ生まれ 「厳格さ」と「公平性」両立へ
- ◆NYで2歳児の保育「無料化計画」を発表 月30万～60万円の保育料は、どうなる？
- ◆アメリカの大学スポーツに衝撃 「バスケット八百長事件」で26人起訴
- ◆AIとの会話で妄想や孤立感が悪化… チャットボットの裏に潜む危険性とは？



エデュサン
edu sun

1. 教育レポート

EDUCATION REPORT

「もちつき会」で笑顔いっぱい

ニューヨーク日本人学校

2026.1.8

ニューヨーク日本人学校（コネティカット州グリニッチ、森本恵作校長）は1月8日、生活科の学習の一環として、1、2年生を対象にもちつき会を開催した。日本の伝統的な正月行事に親しみ、季節の文化への理解を深めることが目的。

子どもたちは事前に「新年にもちつきする理由」や「鏡餅に込められた意味」を学び、もちつき会への興味を高めた。当日は、蒸したもち米の香ばしい香りが会場いっぱいに広がり、普段とは違う特別な雰囲気の中で活動が始まった。保護者もボランティアとして協力し、見守りや準備に当たった。子どもたちは順番にきねを握り、友達のかけ声に合わせて力いっぱいもちをついた。つきあがったもちを二つに分け、丁寧に丸めて鏡餅を作った。試食タイムでは、つきたてのもちのおいしさに驚く声が教室中に響いた。

活動後の振り返りでは、「きねは思ったよりもすごく重かった」「つきたてのおもちは、今まで食べたおもちの中で一番おいしかった」などの感想が聞かれた。

今回のもちつき会を通して、子どもたちは日本の季節行事や伝統文化を五感を使って学ぶことができた。さらに、友達と協力することの大切さや、昔から受け継がれてきた文化の良さに気づく、貴重な機会となった。

（情報・写真提供：ニューヨーク日本人学校）



立派な鏡餅ができました

「大切にしたい日本の文化」 今年も「書き初め」を開催

NY 育英学園サタデースクール・ニュージャージー校

2026.1.10

育英学園サタデースクール・ニュージャージー校は1月10日、新年恒例の書き初めを行った。小学1年生から高校2年生までの児童生徒が学年ごとに参加し、墨の香りが静かに広がる空間の中で、それぞれが筆を手に、自分の心と向き合う時間を過ごした。

同校では海外にある利点を生かし、「日本の学校以上に日本文化の意味や背景を客観的に理解すること」を大切にしている。書き初めも単なる書道体験としてではなく、日本人が長く受け継いできた所作や精神性に触れる学びとして位置付けている。正座で姿勢を整え、先生に丁寧にお辞儀をしてから筆を取る一連の動作には、相手への敬意と、自分自身の心を整える意味が込められている。

この日の書き初めで子どもたちは、筆を運ぶ線の太さや勢い、筆とペンとの書き心地の違いを感じ取りながら、それぞれのペースで書に向き合っていた。書き終えた後、「緊張した」と話す子どもに対し、「英語の学校で書くときにも、同じように感じることはある？」と問いかけてみると、子どもはしばらく考え込み、自分の内側の気持ちと向き合おうとしていた。こうした何気ない対話の中にも、学びの深まりが生まれている。最後の一画を書き終えた後には、「こんなに集中して字を書いたの初めて」「消しゴムで消せないから難しかった」といった素直な感想も聞かれた。

指導に当たった書道家の神谷さんは、『『丁寧に書きましょう』と言うと、ゆっくり書こうとする子どもが多いが、大切なのは速さではない。一画一画に心を込め、その瞬間に集中する感覚を育てたい』と話す。サタデースクールの子どもたちは、平日はアメリカの学校に通い、土曜には日本の学校で学ぶという、二つの文化を行き来しながら生活をしている。新しい一年の始まりに心を整え、日本文化に息づく静寂や敬意に触れながら自分自身と向き合う経験が、子どもたちの感性を育て、多文化社会を生きる力へとつながっていく。(情報・写真提供：育英学園サタデースクール・ニュージャージー校)



講師の神谷さんの指導を熱心に聞く子どもたち

「世界とつながる跳躍」 ダブルダッチチームの挑戦と成長

NY 育英学園

2026.1.13

ニューヨーク育英学園のダブルダッチチームは、日々の練習を通して技術の向上だけでなく、仲間と挑戦する心や、世界へと視野を広げる力を育てている。2026年1月は、そんな子どもたちの成長を目の当たりにする出来事が続いた。

1月13日、同学園のチームは、国際大会で優勝し、世界的に人気の日本人ダブルダッチパフォーマー「REG ☆ STYLE」のリーダー、KO-YAさんを特別講師として迎え、特別レッスンを開催。世界レベルの講師の指導に、子どもたちは緊張と期待の入り混じった表情でロープを見つめ、「こんな跳び方があるんだ」と新しい技の練習に取り組んでいた。

レッスンの終盤、KO-YAさんが披露してくれた即興のパフォーマンスは、まさに圧巻だった。音楽に合わせ、ロープと一体化するような軽やかなステップ、リズムを刻むジャンプ、そして一瞬の判断で繰り出される高度な技の数々。その場の空気が一気に変わり、子どもたちからは思わず歓声が上がった。「あんなふうに跳んでみたい」「どうやったらあんな動きができるの?」と、目を輝かせながら食い入るように見つめていた。世界レベルのパフォーマンスを間近で体感したことで、子どもたちに新たな目標が生まれた。

熱気冷めやらぬ翌日14日には、12月に開催されたダブルダッチ国際大会での成績が評価され、イングルウッドクリフスの市長から表彰式に招待された。子どもたちは、大会で着用したユニフォーム姿で参加し、努力を重ねて成し遂げた成果を改めて実感した。

表彰式では、市長から一人一人の名前が記された表彰状が手渡された。自分の名前を呼ばれ、前に進み出て表彰状を受け取る瞬間、子どもたちの表情には誇りと自信があふれていた。週に3回、夕飯や学校の宿題を終えてから欠かさず参加した学校での練習に加え、それぞれの自宅に集まってチームメンバーと話し合いながら練習を繰り返し、何度も挫折しそうになりながらも挑戦を続けてきた時間そのものが認められた瞬間だった。自身も国際大会で優勝経験のある笠間将平コーチは「ダブルダッチは、必要と思われる何倍ものチームメイトとのコミュニケーションが大切。この経験は子どもたちが大人になっても彼らを助けてくれる武器となる」と目を細めた。

世界で活躍するプロから学び地域社会から正式に評価される経験は、ダブルダッチという競技を超え、子どもたちの人生にとっても大きな財産となった。(情報・写真提供：ニューヨーク育英学園)



ダブルダッチパフォーマーのKO-YAさん（写真右）から大いに刺激を受けた、
ダブルダッチチームのメンバーと笠間コーチ（後列・左）

音楽が育む「あきらめない心」と「豊かな感性」発表会を開催

NY 育英学園

2026.1.11、1.18

ニューヨーク育英学園が運営するニュージャージー音楽教室とフレンズアカデミー音楽教室は、1月11日と18日の2週にわたり発表会を開催、子どもたちは日頃の成果を披露した。

フォートリー・ミュージック・ホールで11日に開催したニュージャージー音楽教室の発表会は全13曲から成るプログラムで構成。ピアノ部門で初めて大舞台に挑む愛らしい演奏から、ショパンのワルツを堂々と弾きこなす本格的な演奏まで、幅広いレベルの演奏者が集まった。ボーカル部門では、ディズニーやジブリの名曲の他、息の合ったアンサンブルで会場を盛り上げた。

指導に当たるアルマンツァー明子さんは「大切なのは、正解を教えてもらうことではない。自分で音を聴き、考え、工夫しながら“どうすればもっと良くなるか”を探し続ける力を育んでほしい」と話した。「どうすればこの曲を弾けるようになるだろう」「この表現は本当に自分が納得できるものだろうか」。失敗を繰り返し、試行錯誤を重ねるそのプロセスこそが、将来、子どもたちが社会に出たとき、自ら課題を見つけ、乗り越えていくための確かな力につながっていく。

ニューヨーク育英学園フレンズアカデミー音楽教室は18日、アッパー・ウエスト・サイドにある歴史ある教会、キリスト&聖ステファノ教会で発表会を開催。ピアノ、バイオリン、歌唱の各演奏に加え、親子で息の合ったハーモニーを奏でる「親子 Duo」のコーナーもあり、生徒はそれぞれの想いを音に乗せて披露した。

さらにスペシャルゲストとして世界で活躍するバイオリニストでマンハッタン交響楽団の音楽監督・創設者、グレゴリー・シンガーさんがゲスト出演。映画「千と千尋の神隠し」のテーマ曲を演奏し、会場を魅了した。フィナーレではグレゴリーさんと音楽教室の生徒が共演、会場は割れんばかりの拍手と歓声に包まれた。発表会の締めくくりには武田秀俊学園長が登場。「AI やテクノロジーの発達によって、結果がすぐ手に入る時代だからこそ、音楽のように時間をかけて向き合う情操教育が、今まで以上に重要だと感じている。今日のみなさんの姿は、何よりの誇りです」とエールを送った。(情報・写真提供：ニューヨーク育英学園)



スペシャルゲストとして演奏した、バイオリニストのグレゴリー・シンガーさん（後列左から2人目）

「Welcome to GJS」 こどものくに幼稚園を招待

NY 日本人学校

2026.1.14

ニューヨーク日本人学校（コネティカット州グリニッチ、森本恵作校長）の1年生は1月14日、こどものくに幼稚園の園児を招待し、交流活動を行った。

1年生は「学校の勉強や行事について動画を作って教えてあげたい」「一緒に遊んで仲を深めたい」との思いで、これまで計画や準備に取り組んできた。当日は“学校探検”からスタートし、1年生が日頃よく使用している教室を中心に紹介。途中にはクイズも取り入れ、楽しみながら学校の様子を伝える工夫も見られた。その後、教室に戻り「GJSや小学校について」「勉強について」など、テーマ別に子どもたちが作成した動画を用いて説明した。続いて学校での朝の準備を園児たちに体験してもらい、最後は1年生が手本を示しながら、園児が「自分の名前をひらがなで書く」活動を行った。

今回の交流を通して、1年生には年下の子どもたちを迎えるお兄さん・お姉さんとしての自覚が芽生えたようだ。大好きなGJSの魅力を伝えたいとの思いを胸に準備を重ねてきた1年生と、園児たちの笑顔があふれる、心温まるひとときとなった。（情報・写真提供：ニューヨーク日本人学校）



学校生活を紹介。わかってくれたかな？

ニューヨーク近代美術館（MoMA）を訪問

NY 日本人学校

2026.1.14

ニューヨーク日本人学校（コネティカット州グリニッチ 森本恵作校長）の初等部6年生は1月14日、Art科の授業の一環としてニューヨーク近代美術館（MoMA）を訪れた。子どもたちはゴッホやピカソをはじめとする多くの著名な作家の作品を鑑賞し、時代や作家による表現の違いや工夫に触れることができた。作品を見比べたり、実際に描いたりする活動を通して、1つのペンでも使い方次第で多様な表現が生まれることを実感した。

当日は、ワイヤーを用いた制作にも挑戦、素材の特性を生かした表現を工夫した。さらに、アート作品を実際に鑑賞しながらスケッチをし、立体作品の特徴を捉えることができた。実際に作品を見て学ぶことで、子どもたちは表現への興味や関心をいっそう高めることができた。

見学後、「美術館のスタッフの説明を聞くことで、作品一つ一つに込められた思いや工夫を知ることができた」「実物を見ることで新たな発見があった」「遠くから見たり、近くで見たりすることで、見え方が変わり、とても面白かった」などの感想が聞かれた。作品を通してさまざまな感性を知るきっかけとなったようだ。（情報・写真提供：ニューヨーク日本人学校）



MoMAのスタッフから説明を聞く子どもたち

新春の挑戦！百人一首大会

NY 日本人学校

2026.1.15

ニューヨーク日本人学校（コネティカット州グリニッチ、森本恵作校長）は1月15日、恒例の新年行事「百人一首大会」を開催した。今年は6～9年生の38人が参加し、熱い戦いを繰り広げた。

国語の授業での練習だけでなく、休み時間や冬休みを利用して自主的に特訓に励んできた子どもたち。「決まり字をしっかり覚えて、素早く札を取る！」「この歌が好きだから絶対に取る！」。熱い思いを胸に、大会に挑んだ。

当日は「横綱」「大関」「関脇」「小結」の学年混合の4グループに分かれ、各グループが対戦した。どの試合も接戦が続き、「ちはやふる神代もきかず竜田川…」の一字目を読まれると、札に一齐に飛びつく様子が見られ、観客も大いに盛り上がった。さらに、英語科のアメリカ人教師も読み手として参加し、日本の伝統文化の魅力や日本語の美しさを子どもたちと一緒に体感する貴重な機会となった。

「百人一首大会」は日本文化を伝える同校の重要なイベントの一つ。子どもたちは、楽しみながら日本の文化や伝統に対する理解を深めた。（情報・写真提供：ニューヨーク日本人学校）



真剣勝負の横綱戦

女声合唱団「花みずき」の歌声ひびく

NY 日本人学校

2026.1.28

ニューヨーク日本人学校（コネティカット州グリニッチ、森本恵作校長）は1月28日、日本人女性による合唱団「花みずき」を招き、コンサートを開催した。花みずきは1983年、音楽を通じての日米文化交流を目的に創設。40年以上にわたり、近隣の修道院や高齢者施設、図書館、学校などでボランティアコンサートを行っている。

当日は明るく清らかな歌声による合唱曲「さんぽ」でスタート。曲が進むにつれて、体を揺らし歌と一緒に口ずさむ子どもたちの姿が見られた。「『あなたのことを』を聞きながら、自分にとって大切な人のことを考えた」と感想を漏らす子どももいた。子どもたち一人一人が歌のメッセージを受け取ったようだった。（情報・写真提供：ニューヨーク日本人学校）



「花みずき」の迫力ある歌声が体育館に響き渡った

ブルーノ・M・ポンテリオ・リッジ・ストリート校と 学校間交流

NY 日本人学校

2026.1.23

ニューヨーク日本人学校（コネティカット州グリニッチ 森本恵作校長）の初等部5、6年生は1月23日、ブルーノ・M・ポンテリオ・リッジ・ストリート校の子どもたちを招待して学校間交流を行った。

まずは、法被を着てソーラン節を披露し、動きが何に例えられているのかを英語で説明した。言葉と動きを結び付けて一緒に体を動かすことで、会場には自然と笑顔があふれ、楽しい時間となった。

教室では、習字、クイズ、折り紙、けん玉を行った。最初は緊張した様子も見られたが、子どもたちは日頃の英語学習の成果を発揮し、積極的にコミュニケーションを取っていた。最後には、ブルーノ・M・ポンテリオ・リッジ・ストリート校の子どもたちへ手作りのプレゼントを贈った。

「これまで努力して準備してきたかいがあった」「伝えようとする気持ちがあれば、相手もしっかり話を聞いてくれる」「日頃の英語学習を生かした」「伝えることの大切さと交流する楽しさを知ることができた」などの感想からも、充実した活動だったことがうかがえた。子どもたちは今回の交流を通して、英語の実践力だけでなく、異文化理解の大切さについても学ぶことができたようだ。（情報・写真提供：ニューヨーク日本人学校）



書道を初めて体験する子どもたちに、親切に教えるニューヨーク日本人学校の子どもたち

未来への第一歩を踏み出して 「10歳のつどい」を開催

NY 日本人学校

2026.1.29

ニューヨーク日本人学校（コネティカット州グリニッチ、森本恵作校長）は1月29日、4年生を対象にした式典「10歳のつどい」を開催した。10歳の節目を迎える子どもたちを祝うとともに、自分の将来について考える時間を持つてほしいとの願いから行っているもの。

式典では、森本校長が「成長証書」が一人一人に手渡した。証書を受け取った子どもたちは、これまでの歩みを振り返りつつ、自分の将来への決意を堂々と発表。保護者への感謝を込めた言葉や夢への思いを力強く語る姿に、会場からは大きな拍手が送られた。

子どもたちが今抱いている夢や希望を大切に、大きく成長していくことを期待したい。子どもたちの未来への第一歩を祝う、感動的な一日となった。（情報・写真提供：ニューヨーク日本人学校）



どんな未来が待っているのかな



エデュサン
edu sun

2. NY 教育関連ニュース

NEW YORK EDUCATION NEWS



「宿題を終えたご褒美」として、子どもに寿司を食べさせる親も多いという。写真はイメージ（photo: Unsplash / Vinicius Benedit）

アメリカの子どもがピザよりも「寿司」を好む時代へ 誕生日パーティーの変化に親が悲鳴

2026.1.7

エビの天ぷらやサーモンのにぎり寿司のおいしさを知ってしまったジェネレーションα（アルファ）。その代償を支払う親からは悲鳴が上がっている。2日付のウォール・ストリート・ジャーナルが伝えた。

カルガリーに住む専業主婦グレース・エンバリーさん（43）の8歳と6歳の兄妹の大好物は、サーモンロールやツナロール、エッグロール。子どもたちは「できれば毎日、寿司を食べたい」と言うが、エンバリーさんは週1回の外食時のみに制限。それでも支払いは1回につき150ドルにも達する。エンバリーさんは当初、手早く手軽に食べられるとの理由で子どもたちに寿司を食べさせたが、今では後悔しているという。8歳のエリオット君は、「回転寿司」が特にお気に入りだ。アシュリー・バプティストさん（32）の5歳と3歳の姉妹も「ピザより寿司」だ。パーティーに出かける際に娘たちを父親に預けた夜、父親から「ショックを受けた」との連絡が入った。「夜の9時に寿司をデリバリーしてほしいって言うんだよ」

スペイン在住のプロバスケットボール選手、ディラン・エニス（33）は、寿司好きの4歳の息子を頻繁にレストランに連れ出し、息子がプロのように箸を使う様子に人々が驚嘆する様を見て楽しんでいるという。「家庭料理で育った僕にとって、マクドナルドのハッピーミールが最高のご馳走だった。妻とよく冗談で言うんだ。自分たちが知らなかった世界観で子どもを育てているってね」

寿司に夢中だという娘の8歳の誕生日にプライベートシェフを雇い、娘と友達に寿司の作り方を教えたのはアップー・ウエスト・サイド在住のエリカ・プライヤーさんだ。「みんな夢中になっていたわ」。ウェストチェスター在住のコンテンツクリエイター、ケイトリン・マレーさん（43）の3人の子どもたちも大の寿司ファンだ。マレーさんは心の平安のためなら出費は厭わない。「24時間365日、家族が何を食べるかを考えるのは恐ろしく気が滅入る。文句を言わずに食べてくれるものを見つけること、それに尽きるわ」

[続きはウェブへ](#)



かつて営業していた地下鉄駅の構造をそのまま展示空間として使っているニューヨーク・トランジット・ミュージアム (New York Transit Museum)

冬のNY、どこで遊ぶ？ 大人も子どもも遊べる室内スポット 10 選【保存版】

2026.1.10

冬のニューヨークは、雪や冷たい雨、強風で外遊びが難しい日が続く。そんな時期、天候を気にせず楽しめる室内スポットがあるとうれしい。今回は、子どもと一緒に楽しめる遊び場を紹介する。

1. ボウレロ チェルシーのボーリング場

冬の定番アクティビティとして安心感のあるボウリング。チェルシー・ピア内にあるボウレロは、レーン数が多く、フードやドリンクも充実している。

Bowlero Chelsea Piers

60 Chelsea Piers

<https://www.luckystrikeent.com/>

2. カラー・ファクトリー

色をテーマにした体験型アート施設。部屋ごとに異なるインスタレーションが展開され、鑑賞するというより体験するアートが中心。部屋ごとにテーマが異なり、次に何が出てくるかわからないサプライズも多いため美術館が苦手な子どもでも入りやすい。

Color Factory NYC

251 Spring St.

<https://www.colorfactory.co/>

3. ビート・ザ・ボム・ブルックリン

制限時間内に謎を解けなければ、スライムやペイントが降ってくるユニークなエスケープルーム。大きめの子どもがいる家族にもおすすめ。

Beat The Bomb Brooklyn

255 Water St., Brooklyn, NY

<https://beatthebomb.com>

4. コンプリート・プレイグラウンド

約4万平方フィートというニューヨーク市最大級の室内プレイグラウンド。ジャンプ、滑り台、ごっこ遊びなど、年齢や能力を問わず楽しめる。特筆すべきはセンサリーフレンドリー時間の存在。照明や音を抑えた時間帯があり、感覚過敏な子どもも安心して過ごせる。

Complete Playground

30 Broad St.

<https://completeplayground.org/>

[続きはウェブへ](#)



ニューヨーク市の新しい教育局長に就任したサミュエルズ氏（左）とママダニ新市長（photo: ニューヨーク市公立校の公式インスタグラム @nycschools からスクリーンショット = 2025 年 1 月 9 日）

NY 市の新教育局長はジャマイカ生まれ 「厳格さ」と「公平性」両立へ

2026.1.13

ニューヨーク市の学校運営は、87 万 5000 人以上の生徒を教育するシステムを担うという、まさにヘラクレレス級の難題である。公立学校の生徒数が 20 以上の州のそれぞれを上回るこの都市において、教育は最も政治的な争点の一つだ。市教育局（DOE）のトップに就任したカマー・H・サミュエルズ氏（48）は、学業成績が人種や所得によって著しく分断され、解決策を巡り家庭間で激しい意見の対立が続く中、この広大な教育システムを導く責務を負うことになる。ニューヨークタイムズは 12 日、新教育局長が明らかにした優先課題について伝えた。

サミュエルズ氏の教育ビジョンは「厳格さ」と「公平性」が柱だ。直近までマンハッタン西地区の学区長を務めた教育現場のベテランである同氏は保護者に向けて「幼児期から卒業まで、全ての子どもは安全で、学問的に厳格かつ統合された学校に通う権利がある」と表明。学校統合などの難題にも正面から向き合う姿勢を示した。

市では、貧困層と高所得層の生徒間の隔たり解消が重点課題となっている。市内 32 学区のうち 9 学区（サミュエルズ氏が率いた 2 学区を含む）が対象で、これらの学区では社会経済的多様性が平均を上回る一方、所得水準による分離が依然として残っている。

教育行政は多くの都市で不平等是正と高度な学習機会の両立に苦慮してきた。公平性を理由に授業の在り方を見直す動きは、保護者の反発を招くことも少なくない。サミュエルズ氏は、公立学校が「ニューヨーク市の豊かな多文化性」を反映すべきだと述べ、生徒のアイデンティティを尊重しつつ、学問的な挑戦を怠らない学校づくりを約束している。

[続きはウェブへ](#)



保育無料化はママダンニ新体制の目玉となる政策の一つ。写真はイメージ (photo: Unsplash / Gautam Arora)

NY で 2 歳児の保育「無料化計画」を発表 月 30 万～ 60 万円の保育料は、どうなる？

2026.1.14

高騰する家賃同様、保育料の家計圧迫が問題となっているニューヨーク。市と州は 8 日、2026 年から 2 歳児向けの無料保育「2-Care」プログラムの段階的導入を発表した。新制度の概要と現在の保育料の実態、東京都の状況も併せて解説する。

NY で始まる「2-Care」無料保育とは？

「2-Care」は、2 歳児を対象にした無料の保育プログラム。2026 年秋から、まずは保育ニーズの高い地域で約 2000 人を対象にスタートし、その後 4 年ほどかけて市全体へ広げていく計画だ。今回の発表では、既に実施している 3 歳児向けの低額または無償プログラム「3K」や、4 歳児向けの就学前教育プログラム「Pre-K」についても、より多くの家庭が利用できるよう予算を増額する方針が示された。ニューヨーク市全体で幼児教育の受け皿を広げていく姿勢が打ち出された形だ。

NY の保育料は、家賃並み？

こうした制度が求められてきた背景には、ニューヨーク市における保育料が全米の他の都市と比べて突出していることにある。0～2 歳児の場合、認可施設のデイケアでも月額 2000～4000 ドル（日本円にして約 30～60 万円）を超えることが珍しくないなど、家賃と同じか、それ以上の支出となる家庭も多い。幼児期の保育料が世帯収入の 4 分の 1 以上を占めるケースも報告されており、保育料は保護者が「働き続けられるかどうか」を左右する大きな壁となってきた。

東京では、既に 0～2 歳児の保育料が無料化

一方、日本、とりわけ東京都では、保育料の負担軽減が既に大きく進んでいる。日本の保育制度は公的支援の割合が高く、家庭の自己負担は比較的抑えられてきた。

[続きはウェブへ](#)



八百長に関与したとして起訴されたデポール大学の選手 (photo: CBS Chicago の YouTube, <https://www.youtube.com/@CBSChicago> からスクリーンショット = 2026 年 1 月 16 日)

アメリカの大学スポーツに衝撃 「バスケ八百長事件」で 26 人起訴

2026.1.27

米連邦検察は 12 日、現役選手を巻き込んだ大学バスケットボールの八百長事件に関与したとして、26 人を起訴したと発表した。ニューヨークタイムズが 15 日、伝えた。

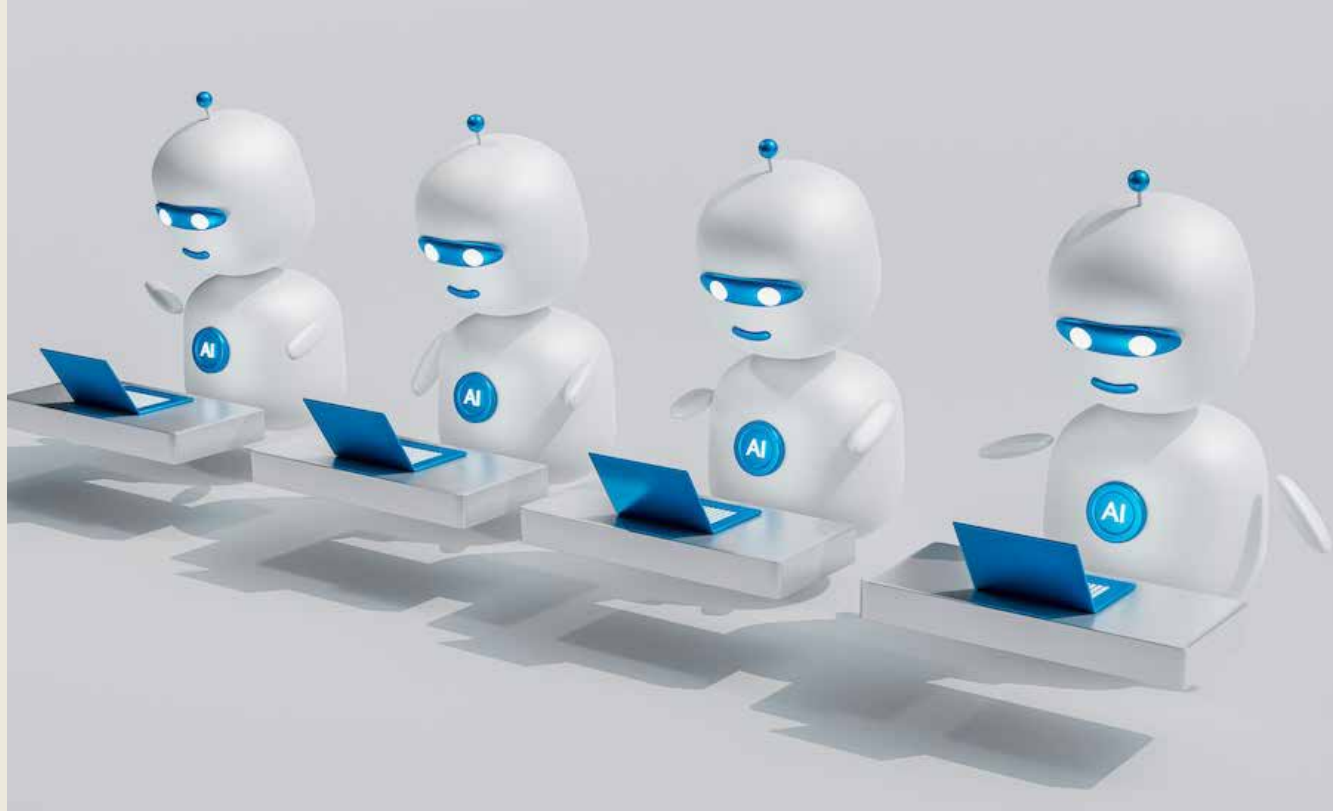
起訴状によると、選手らは試合中に意図的に得点差を調整し、賭けが成立するよう操作（ポイントシェービング）していた。賭博には主に中堅・下位校の選手 39 人以上が関与し、そのうち 20 人が不正関与の罪で起訴された。

シカゴのデポール大学では 4 人の選手が 3 試合で八百長に関与したとされる。2024 年 2 月に行われたジョージタウン大学との試合では、前半終了時の点差を操作するよう求められ、その見返りとして翌日に計 4 万ドルを受け取ったという。デポール大学は当時、ビッグイーストで 0 勝 16 敗と低迷していたが、検察はチーム成績不振の背景に不正関与があったと指摘している。他にも、アラバマ州立大学、バッファロー大学、フォーダム大学、ニューオリンズ大学、ノースウエスタン州立大学など 10 校以上の大学の試合で不正操作が疑われている。

今回の起訴には、ケネソー州立大学、イースタン・ミシガン大学、テンプル大学などに在籍していた現役選手 5 人も含まれ、各大学は該当選手の出場停止やチーム除外を発表した。

賭博組織の調整役とされるシェーン・ヘネン被告とマービス・フェアリー被告は、スポーツ贈賄や通信詐欺などの罪で起訴された。両被告は、別件の NBA 関連不正取引事件にも関与した疑いが持たれている。

ペンシルベニア東部地区のデービッド・メトカーフ連邦検事は「これは大学スポーツの腐敗だ。スポーツの公正性には重大な公益が存在する。自由で公平な競争の場こそが米国社会の大きな価値だ」と強調した。



AI は医師でも友人でもない。情報整理に使うだけにとどめたい。写真はイメージ (photo: Unsplash /Mohamed Nohassi)

AI との会話で妄想や孤立感が悪化… チャットボットの裏に潜む危険性とは？

2026.1.30

AI チャットボットは情報検索や相談相手として人々の生活に急速に浸透している。ただ、その利便性の裏側で、深刻な精神的影響が懸念されている。アメリカの精神科医やセラピスト 100 人以上が、AI との会話で患者の妄想・孤立・不健康な行動を悪化させたと証言している。ニューヨークタイムズが 26 日、伝えた。

高額商品の購入について ChatGPT に助言を求めた精神疾患の既往歴がない女性は、AI から数日間にわたり不安を肯定され続けた結果、企業が政府に自分を調査させるよう共謀していると確信するようになった。別の患者は、片思いの相手が秘密の霊的メッセージを送っていると信じ込むようになり、また別の患者は世界を揺るがす発明を発見したと確信した。精神が不安定な患者の治療を専門とする医師でさえ、「AI が患者の異常な信念を拡大・強化する共犯者のようだ」と動揺を隠せないでいる。

多くの専門家は、診断への理解を助けるなど AI の好影響も認めつつ、会話が患者の孤立感や不安を深めると指摘。AI が不安や強迫観念を過剰に肯定したり、人間関係を避けて AI に依存する傾向を助長したりする点を懸念している。30 人以上の医師が、精神病や希死念慮に至った危険な事例を報告し、ある法医学精神科医は、AI によって妄想が強化された結果、起きた暴力犯罪 2 件を確認している。

ChatGPT の開発元 OpenAI は、AI が心理的損害をもたらしたとする少なくとも 11 件の訴訟に直面している。サム・アルトマン CEO は「精神的に脆弱なごく一部の利用者に深刻な問題が生じ得る」と述べ、利用者の 0.15% が 1 か月間に自殺の意図について話し、0.07% が精神病や躁状態の兆候を示したと推定している。一方で、AI が危機を察知して受診を促し、命を救った例もある。専門家は、AI が人間関係の代替になってはならないと警告している。

supported by



edu sun